

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-112	高等学校	商業	ビジネス・マネジ メント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	商業 007-909	ビジネス・マネジメント 新訂版		

1. 編修の基本方針

- ・ビジネスにおけるマネジメントについて，実務に即して体系的・系統的に理解できるようにするため，本文記述とともに実社会に即した具体的事例を「事例」として掲載した。
- ・幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養う観点から，本文記述に関連した興味深い考察を「コラム」として掲載した。
- ・自主及び自律の精神を養う観点から，章の終わりに学習内容の理解度を問う「確認問題」を掲載し，自学自習に取り組めるようにした。
- ・主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う観点から，「事例」と「コラム」を基にした実習課題として「+Study」を，本文記述や図表に関連した実習課題として「+Work」を掲載し，主体的・対話的に内容の理解を深める学習ができるようにした。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見返し	個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視する観点から，プロ野球選手が高校生時代に自身の成長のために用いた目標設定の手法を取り上げ，目標設定の重要性を記述した。（第2号）	巻頭③
	正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う観点から，障害のあるアーティストのアート作品を多様なモノやサービスなどでビジネスに展開し社会的な課題の解決に取り組む企業の事例を取り上げ，社会が創り出した障害を除いていくことで，あらゆる人にとってより良く暮らせる世界に近づくことの重要性を記述した。（第3号）	巻頭⑤

	自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、公益性の高い企業であることを示す認証制度について取り上げ、フードロスの削減に取り組みつつ売上の一部を環境保全や災害支援への寄付や基金として活用するビジネスの事例を紹介した。(第4号)	巻頭⑥
1章	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、ビジネスの役割を、社会の中にある課題を解決するためと定義し、新しい事業創造によって社会的課題を便益に変えて社会をより良くしていく意義を述べた。(第3号)	p. 12~14
	男女の平等や公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、子育てする母親を支援するサービスを取り上げた。(第3号)	p. 14
	幅広い知識と教養を身に付ける観点から、シュンペーターのイノベーションの五つのタイプを、イラストとともに説明した。(第1号)	p. 16
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、企業や社会が発展するために、経営理念や企業家精神が重要であることを記述した。(第3号)	p. 19~20
	他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、企業の社会的責任の事例として、外国でのアルコール手指消毒剤の製造および現地の病院への普及活動を行う企業を紹介した。(第5号)	p. 27
	幅広い知識と教養を身に付ける観点から、企業の外部環境と内部環境の分析方法を図表と例示とともに記述した。(第1号)	p. 31~34
	創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、勤労を重んずる態度を養う観点から、事業計画書の立案の方法や例を示した。また、起業の手続きも取り上げた。(第2号)	p. 38~39

2 章	<p>正義と責任，自他の敬愛と協力を重んずる観点から，適切な組織づくりのために経営者や管理者が行うべき基本的な管理活動を五つ列挙し，図とともに説明をした。（第3号）</p> <p>個人の価値を尊重して，その能力を伸ばす観点から，組織のなかで高い生産性を実現するための専門化の重要性を取り上げた。（第2号）</p> <p>豊かな情操と道徳心を培う観点から，顧客満足度を高める接客サービスの例を取り上げ，そのためには従業員が企業理念を理解することが重要であることを記述した。（第1号）</p> <p>自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う観点から，組織化における分業と調整の意義について記述した。（第2号）</p> <p>正義と責任を重んずる態度を養う観点から，集団におけるリーダーが持つべきリーダーシップについて取り上げた。（第3号）</p> <p>伝統と文化を尊重する観点から，ラグビー日本代表のヘッドコーチが，日本人の特性を活かしたビジョンを示して選手の自信を深めさせ，その結果としてワールドカップで躍進した事例を取り上げた。（第5号）</p>	<p>p. 51</p> <p>p. 52</p> <p>p. 54</p> <p>p. 54～56</p> <p>p. 63</p> <p>p. 65</p>
3 章	<p>幅広い知識と教養を身に付ける観点から，財務分析の基礎的な方法について記述した。（第1号）</p> <p>勤労を重んずる態度を養う観点から，採用のプロセスを取り上げ，企業と労働者が相互の情報を持つことの重要性を説明した。（第2号）</p> <p>男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずる観点から，男女雇用機会均等法ならびに障害者雇用促進法を取り上げ，企業が公平に人材を確保することの重要性を記述した。（第3号）</p>	<p>p. 80～84</p> <p>p. 85</p> <p>p. 87</p>

	<p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、障がい者を積極的に雇用し、自立して働ける環境づくりを整えるために工夫を行っている企業の事例を紹介した。(第2号)</p> <p>豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う観点から、従業員のライフスタイルに応じて労働時間を柔軟に設定する取り組みや制度を紹介した。(第1号)</p> <p>自他の敬愛と協力を重んずる観点から、業務を遂行するための知識を他者に共有・移転する方法を取り上げた。(第3号)</p>	<p>p. 87</p> <p>p. 95</p> <p>p. 106～107</p>
4章	<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、コングロマリットの例として、福岡県のグループ会社の歴史と発展を紹介し、同社が地元圏である九州の経済に貢献していることを記述した。(第5号)</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、事業活動の意思決定をする分析手法であるPPMについて図表とともに記述した。(第1号)</p> <p>公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、企業が既存の事業から撤退する際に社会に与える影響について言及した。(第3号)</p> <p>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、騒音が小さく燃費性能がよいジェット機の事例を取り上げた。(第4号)</p>	<p>p. 117</p> <p>p. 123～126</p> <p>p. 128</p> <p>p. 129</p>
5章	<p>公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、ビジネスにおけるさまざまなステークホルダーとの関わりについて記述した。(第3号)</p>	<p>p. 136～137</p>

	<p>職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、従業員が雇用契約をして企業に労働力を提供することは、生活において不可欠な活動であることを記述した。(第2号)</p> <p>伝統と文化を尊重する観点から、日本的経営の三種の神器と呼ばれる三つの経営慣行について記述した。(第5号)</p> <p>個人の価値を尊重する観点から、従業員への責任のなかで、ハラスメントへの対策やワークライフバランスの実現、ダイバーシティの推進の重要性について言及した。(第2号)</p> <p>正義と責任の観点から、企業の消費者に対する責任を取り上げ、企業が不正行為を行うと企業への信頼が失墜することなどについて言及した。(第3号)</p> <p>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、SDGsを取り上げ、持続可能な発展を実現するために、企業はSDGsの目標に応えることが求められていることを記述した。(第4号)</p>	<p>p. 140</p> <p>p. 140</p> <p>p. 144</p> <p>p. 145</p> <p>p. 154</p>
--	---	---

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1章の冒頭において、ビジネス・マネジメントが新しいビジネスの創造を通じて社会のニーズと課題に応えることであると定義付けることで、学習者が、教科書全編を通じて社会のニーズと課題について考えることができるように配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-112	高等学校	商業	ビジネス・マネジ メント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	商業 007-909	ビジネス・マネジメント 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

科目『ビジネス・マネジメント』を生徒が興味を持って学習し、マネジメントに関する基礎的・基本的な事項を無理なく習得できるように、以下の点に配慮した。

- (1) 教科書の冒頭に Introduction を置き、マネジメントとは何か、ビジネスとは何か、科目『ビジネス・マネジメント』をなぜ学ぶのか、それは商業科の科目のなかでどのような位置づけなのかを示し、初学者の学習意欲と目的意識の喚起につながるように配慮した。
- (2) 生徒が事例と関連付けて本文内容を理解できるように、本文記述に対応した具体的事例を「事例」としてまとめた。また、生徒の意欲を引き出すため、本文記述に関連する興味深い話題を「コラム」としてまとめた。
- (3) 生徒が主体的かつ協働的に学習に取り組むことができるように、「事例」「コラム」に対応した実習課題として「+Study」を、本文記述や図表に関連した実習課題として「+Work」を掲載した。テーマに応じて「調べよう」「考えよう」「話し合おう」といった三つの観点のなかから課題を設定し、多様な観点で学習内容を深められるように配慮した。
- (4) 「1章 ビジネスの創造」では、新たなビジネスを生み出すのに必要な考え方や手順、方法について扱った。また、どの顧客に、何を提供し、どのような活動でどのように収益を上げるのかを示すビジネス・モデルを紹介する特集ページを設けた。
- (5) 「2章 ビジネスの組織化」では、協働の場としての組織の組み立て方と運営の仕方について扱った。
- (6) 「3章 経営資源のマネジメント」では、製品やサービスを提供するために必要な「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という経営資源のマネジメントについて扱った。
- (7) 「4章 ビジネスの変革」では、企業が長期的に発展するために必要な、持続的な革新のあり方について扱った。
- (8) 「5章 ビジネスと社会」では、企業とステークホルダーとの関わりの重要性を記述し、ビジネスと社会の関係についてまとめた。
- (9) 各章末に、実践的、体験的な学習につなげられる実習ページを置いた。

- (10) 学習指導要領「(5)ビジネスの創造と展開」との対応に加えて、全編を通じて取り上げてきたビジネス創造について総合的な学習をするため、総合実習「新規事業を計画しよう」を設けた。
- (11) 学習指導要領「(1)ウ 創業者や経営者の理念」に関連して、特集ページ「日本の企業家」を設け、近代以降の日本を代表する企業家11人を紹介した。
- (12) 側注欄に、生徒や先生をイラスト化したキャラクターの吹き出しを掲載し、内容の理解を助ける役割を与えた。
- (13) 側注欄に、重要用語の意味をまとめた「Word」を掲載し、用語の意味が理解しやすくなるようにした。
- (14) 本文下には適宜参照ページを示し、教科書全体の流れをつかみ、相互の内容について理解が深まるようにした。
- (15) 巻末に、教科書の重要用語をまとめた「重要用語のまとめと解説」を掲載した。
- (16) 基本的な用語については、英語表記に慣れ親しむことができるように、英訳のルビを振った。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1章 ビジネスの創造		p. 12～39	(25)
1節 ビジネスの創造と社会	(1) ア マネジメントの役割		3
2節 事業創造の基本	(1) イ イノベーションの重要性 (1) ウ 創業者や経営者の理念		5
3節 事業機会の発見	(1) エ 外部環境の影響		6
4節 戦略と競争優位	(2) イ 経営理念と経営戦略		9
5節 事業創造の計画と実行	(5) ビジネスの創造と展開		2
2章 ビジネスの組織化		p. 50～72	(20)
1節 組織のマネジメント	(2) ア 組織の形態		1
2節 分業と調整			5
3節 組織の設計			6
4節 組織内部のマネジメント	(3) イ 人的資源のマネジメント		7
5節 取引関係のマネジメント	(2) ウ 企業間連携と事業構造の 再構築		1
3章 経営資源のマネジメント	(3) 経営資源のマネジメント	p. 79～108	(26)
1節 財務的資源のマネジメント			5
2節 人的資源のマネジメント			11
3節 物的資源のマネジメント			6
4節 情報的資源のマネジメント			4
4章 ビジネスの変革		p. 114～132	(17)
1節 ビジネスの拡大	(2) イ 経営理念と経営戦略		5
2節 多角化の動機	(1) エ 外部環境の影響 (2) イ 経営理念と経営戦略		3
3節 多角化企業のマネジメント	(2) イ 経営理念と経営戦略		5
4節 事業の転換	(2) ウ 企業間連携と事業構造の 再構築		4
5章 ビジネスと社会	(4) 企業の秩序と責任	p. 136～154	(17)
1節 社会における企業			1
2節 企業への支援			5
3節 企業の責任			5
4節 企業への牽制			6
		計	105